

があると。そして、そのうち、ちょうど網代、網代は埋め立てた場所ですね、国内の航路の整備された建物の先の空き地の方向で、病院の候補の一候補地であると。その他、比田勝中学校の左側の向こう手が、山手のほうに高台にどうかと。そういうふうなことで、私は、2か所について、そういうことがあるんだな。しかし、貿易の港の問題が浮上した場合に、ここで競合せやせんかな。そんな感じがいたしまして、これ早めに、もう一遍、上対馬のあるいは北部の発展を考えた場合、どういうふうな絵を描いた方がいいのか。もう一遍そこらあたりを練り直していかないかんことがあるんじゃないかなという懸念をしておりました。

だから、一番環境的に、お金もかからんのは、網代の広場が病院の建てる場所としてはいいかもしれません。ただ貿易の問題が浮上したときに、これがどうなるかというのは、私は引っかかるばいと思うとったんですが、そこらをひとつ対馬市としては十分話を振り出しの中で深い考えの中で決断をせないかんだらうというふうに思いますが、これは余分ですけども、そういうふうなことも、早めにはっきりしていかないかんことであろうと、こういうふうに心配しております。

そういうことを今日は中に入ることなく、そのくらいの程度で私は終わりますが、ひとつ、慎重な考えの中で対応していただきたい。港の用地がそんなにあるのかというのは、あまり横幅がない場所ですから、縦長でありますから、船の往来の貨物船のどこにどうというようなことが出てきましようが、そこらあたりを少しチェックしていただきたい。かように思います。

残り3分でございますが、私の一般質問はこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、大浦孝司君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩といたします。再開は午後1時5分からといたします。

午前11時53分休憩

午後1時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

報告します。波田政和君から早退の届出があっております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 会派、市民協働、9番議員の脇本啓喜です。

まずは、前回の9月定例会最終日において、高レベル放射性廃棄物（核のごみ）最終処分場誘致に、比田勝市長が、議会が誘致推進の請願を採択したにもかかわらず、誘致反対の判断をなされたことについては敬意を表します。しかし、3月定例会で小職が一般質問を行った時点で、

「誘致反対を掲げて当選したのであるから、少なくとも私の任期中は文献調査に応募しない」と市長が明言していれば、御自身が恐れる市民の分断を増幅させずに済んだと思います。遅きに失したことは十分自覚すべきであり、そもそも、しっかりと市政運営ができていれば、核のごみ最終処分場を誘致しようなどという動きを再燃させずに済んだのではないかと思います。

一方、誘致反対に御協力いただいた市民の皆様には、この場を借りて心より厚く御礼を申し上げます。

市民の分断という大きな代償を払うことになりましたが、今後の対馬が持続可能な島を目指していく上で、大きな収穫を得られたと私は感じています。それは、これまでは市民が何を言おうとも政治を変えられないと多くの市民は諦めていたようですが、この誘致反対運動を通じて、仲間をつくって行動を起こせば政治を動かせるという成功体験を積むことができたことです。市長が核のごみ最終処分場誘致拒否を明言した時点で、フェーズが大きく変わったと私は認識しています。対馬市民からも、島外の方々からも、対馬市は核のごみ最終処分場誘致を拒否して本当に正解だったと評価される持続可能な島を目指していくことが求められると思います。

ここで、特に誘致反対運動に御協力いただいた市民の皆様には、比田勝市長が誘致反対の判断をしたことは評価してもよいとしても、それだけをもって3選支持とするのはいかなものかと思います。

市民がこの誘致反対運動を通じて、仲間をつくって行動を起こせば政治を動かせるという成功体験を十分に生かせる。つまり市民協働を実践できる市長が今の対馬には必要です。比田勝市政の市民協働分野に関する評価は、私は高くありません。来年3月3日投開票が迫った市長選挙最後の一般質問に当たって、比田勝市長の2期8年間の実績を検証し、また将来ビジョンはどうなのかを市民自ら判断してほしいとの思いから、今回の一般質問は行うつもりです。

ところで、核のごみ最終処分場誘致に市長が反対を表明した件に関して、今議会では複数の会派代表質問や一般質問がありました。

中でも新政会会派代表質問において船越会長が、議会の採決結果に反する判断をした市長は議会制民主主義に反しており、通らないから出さないが、市長不信任に相当する旨、発言なさいました。会派代表質問での発言は当然会派の意向と解釈されます。我々誘致反対議員には既に覚悟を確認しております。船越新政会会長、堂々と市長不信任案を御提案ください。その際は責任持って新政会メンバー全員不信任案に賛成するようお取り計らいくださいませ。船越議員は、常識ある誘致賛成の市民はたくさんいるとおっしゃいました。不信任が成立して市長が議会を解散し、市議会議員選挙になったら、候補者全員が賛否をはっきりさせて戦おうではありませんか。

もう一つ、今議会一般質問で複数の議員から住民投票実施の提案がありました。しかし、例え、地方自治法上の要件である有権者の50分の1以上の署名が集められたとしても、対馬市市民基

本条例には住民投票条例を制定して、それに従って実施する旨、規定されているので、住民投票条例が未制定である現状の対馬市では、住民投票は実施できません。市民が誤解なさってはいけないので申し添えます。

前置きが長くなりましたが、ここから通告に従い質問を始めます。

1、就任期間2期8年間の実績に対する市長自らの評価について答弁を求めます。

(1) 第2次対馬市総合計画後期計画全体の進捗状況について、市長の自己評価を簡明に求めます。

(2) 特に、なりわいづくりに絞って、その達成状況・自己評価について、市長の答弁を求めます。

その際、同計画37ページ、将来像②地域経済が潤い続ける島で掲げている、1次産業が持続可能な形で続けられる、観光産業等で地域経済が活性化している、新産業が作られ、雇用も多く確保できている、この3項目の成果・取組状況が把握できる具体的データを示し、その検証結果を求めます。

大きな2番、3選を目指すに当たって、現段階でのマニフェストの構想について。

(1) 前項1で検証したことを踏まえて、令和6年度当初予算に反映する予定の新規事業、あるいは改善を図る重要施策があれば、市長の答弁を求めます。

(2) 地域の経済発展を図るには基幹産業を生かした施策に取り組むべきです。畑違いの企業誘致は、企業城下町のあつけない凋落や日韓関係の悪化による対馬市の官業、産業の激しい浮き沈みなど、はやりすたりが激しい令和の時代においては、特定産業に極端に依存するのはリスクが大きい。次期市長選挙に当選した場合、対馬市を持続可能な島とするための経済施策の指針について、市長の答弁を求めます。

大きな3番、持続可能な島とするための歳出削減あるいは新たな財源確保策について。

令和4年度決算ベースでは、約86%が経常経費です。つまり一般会計予算のうち、約50億円程度が自由裁量の利く予算額として残ります。また、このほか、6月定例会一般質問で取り上げた約50億円の比較的取崩し容易な基金もあります。しかし、これらの財源のみでは、対馬市を持続可能な島とするには、財源不足は否めません。これら以外の財源確保について、市長の答弁を求めます。

(1) 対馬市の財源確保あるいは域内総生産増加策について、市長の答弁を求めます。

(2) 具体的な歳出削減策について、市長の答弁を求めます。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） ただいまの9番、脇本議員の質問の中で、私に対する、私が3選を目

指す上での質問について、これは私を批判する、批判と私は受け止めましたけども、この公共用の電波で放送されますこのような一般質問の中で、このような質問というのを発しても、これはよろしいのでしょうかね。

私は、この今の質問の内容については、要は私の批判、要するに、この議会の放送の中で、私の選挙妨害をするというように私は取っておりますけど、議員の皆様いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） そうですね、選挙の話は議会の中ではしないというようなことになっておりますので、立候補とか、いろいろな諸問題は。そのような規定になっていると思います。議会の中で。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 僕より先に誰か聞くんですか、一般質問なんだけど。じゃあ、僕の一般質問以外のことをするんであれば……。

○議長（初村 久藏君） いえいえ。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 時間を止めてください。

○議長（初村 久藏君） 一般質問を続けて……。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 今、市長が、反問権もないのに言われるのもどうかと思うんですけど、そういうふうにおっしゃるのなら、皆さんに聞くのなら、時間は止めてください。私の分じゃないんですから。市長の、首長の……。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。

午後1時17分休憩

-----  
午後1時18分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） それでは、脇本議員の質問にお答えいたします。

まず、1点目の就任期間2期8年間の実績に対する自らの評価ということでございますけども、市民主体の地域づくり、市民協働のまちづくりを推し進めるため、平成28年から10年間の第2次対馬市総合計画を策定しており、前期5年の実施状況及び評価を踏まえ、世界が取り組む課題でもあるSDGsの推進をはじめ社会情勢を見据えた計画となるように、令和2年度に総合計画を策定いたしました。

本計画の進捗としましては、現在3年目を迎え、「自立と循環の宝の島 対馬」の将来像に向けて、4つの挑戦に取り組んでいるところでございます。

まず、挑戦の一つであります、ひとづくりにつきましては、課題である若い世代の人口が極端に少なく、対馬市の人口ピラミッドのバランスを改善すべく、若者の移住・定住の推進に資する

事業として、創業支援、リモートワーク支援、しまぐらし支援、結婚移住支援等に取り組んでいるところでございます。

また、通告でございました、なりわいづくりにつきましては、地域経済が潤い続ける島を目指すために、3つの優先課題を掲げ取組を進めているところでございます。

具体的なデータを示してとのことでございますので、まず1つ目の持続可能な農林水産業を展開するという課題につきましては、水産業者や漁村への支援、農林業生産基盤整備等を実施しており、主な事業としましては、水産物の島外出荷の負担軽減を図る離島輸送コスト対策事業において、令和3年度では3万7,188トン、令和4年度では3万6,508トンの出荷に対し助成し、また新規就業者の定着促進を図る漁業就業実践研修事業において、令和3年度では4名、令和4年度では7名の新規就業者へ助成し、担い手確保・育成を図っているところでございます。

林業分野では、市営林を計画的に整備することで、木材の安定供給、持続的な森林経営と資源活用を図るため、市営林整備事業を実施しております。令和3年度では58ヘクタール、令和4年度では38.6ヘクタールの間伐を行い、健全な森林の保全にも努め、1次産業事業者の所得の向上を図っているところでございます。

2つ目の地域経済の循環の仕組みを確立するという課題につきましては、対馬の魅力発信・PR、受入れ体制の整備、地産地消の推進等を実施しており、主な事業としましては、旅行会社等に対する対馬旅行商品造成に係る対馬観光アドバイザー事業において、令和3年度では旅行社26社、令和4年度では旅行社49社へ訪問し、対馬への誘客を図っているところでございます。

また、誘客においては、対馬が古来より外交の中枢であり文化・技術の中継点であったということで、国際交流、平和学習、歴史教育などの生きた教材が豊富であり、この教育資源を生かすことに焦点を当て、修学旅行にターゲットを絞り、民泊を活用した旅行誘致の受入れ体制を図ることを目的として、教育旅行推進事業を令和3年度から実施しております。

令和3年度は23校に対してニーズ調査を実施し、令和4年度では16校訪問営業を行った結果、令和3年度ではゼロ校の実績でありましたけども、令和4年度は神奈川県から1校、愛知県から1校、大阪府から3校、延べ5校の修学旅行に、対馬に訪れられております。ちなみに、令和5年度は8校の予定と聞いております。

対馬への観光客は、令和3年度12万4,000人、令和4年度16万4,000人の誘客実績でございます。

また、観光案内板等を整備する対馬観光リニューアル事業において、令和3年度では2か所、令和4年度では3か所に設置したところでございます。

3つ目の事業を承継・拡大して雇用を創出するという課題につきましては、対馬製品の販路拡大、新規創業と事業拡大による雇用機会拡充等を実施しており、主な事業としましては、返礼品

取扱い品目拡大と対馬産品PRを図るふるさと納税返礼品事業において、令和3年度では293品目、令和4年度では394品目を登録し、対馬産品PRにつなげているところでございます。

また、雇用機会拡充支援事業において、令和3年度では、新規創業2件、事業拡大28件、雇用創出人数40人、令和4年度では、新規創業1件、事業拡大36件、雇用創出人数32人の実績であり、さらなる雇用の創出を図っているところであります。

対馬のあるべき姿である地域経済が潤い続ける島で示した3つの成果項目の、1次産業が持続可能な形で続けられる、観光産業等で地域経済が活性化している、新産業が作られ、雇用も多く確保できているにつきましては、先ほど主な事業で説明しました実績の数字での評価であれば、ある程度の効果はあったと評価できると考えております。

後期計画全体としましては、2か年が経過したところではありますが、新型コロナウイルス感染症の関係で思うような取組ができなかった事業もありましたけれども、ある程度の効果はあったと言えると思っております。

今後もみんなが主役になる社会の実現に向けて、軌道修正しながら計画終了時の令和7年度まで市民と一体となって取り組んでまいり所存であります。

次に、2点目の3選目を目指すに当たって、現段階でのマニフェスト構想についてでございますが、先般の9月定例会最終日におきまして、3選に向けた次期市長選挙への出馬表明をさせていただいたところでございます。

前回の市長選挙の折には、5つの拡大戦略を掲げ、本市のかじ取り役として一生懸命に取り組んできたところでございますが、まだまだ道半ばであり、今後も継続して取り組むべきものや、さらに強化して取り組む必要があるものなど、本市が目指す「自立と循環の宝の島 対馬」の将来像に向けて解決していかなければならない課題は、まだまだ山積している状況であります。

そのような中で、3選に向けたマニフェスト構想につきましては、2期8年間の取組や諸課題を整理しながら現在、準備しているところでございますが、対政会、新政会の質問でもお答えしましたとおり、誰一人取り残さない持続可能なしまづくりをコンセプトとして、移住・定住施策の拡大、婚活や出会いの場の増設、特定地域づくり事業協同組合を活用した担い手の拡大、出産と子育て環境の充実、離島留学制度の拡大と充実、通信環境の改善・充実によるワーケーション等の推進と誘致企業の促進、最後にSDGs推進による持続可能なしまづくりを目指してまいりたいと考えております。

詳細につきましては、この場での答弁は控えさせていただきたいと思っております。

また、令和6年度の当初予算につきましても、年明けの3月定例会に上程予定であります。選挙の関係から経常的な経費が主の骨格予算の計上となりますので、この場での私からの答弁は

控えさせていただきたいと思います。

次に、3点目の持続可能な島とするための歳出削減、新たな財源確保についてでございますが、さきの定例会でもお答えした内容と重複いたしますが、自主財源の確保につきましては、歳入の根幹であります市税収入の安定的な確保でございます。企業誘致や地場産業への支援をすることにより、長期的な税収の確保に努めてまいります。

また、引き続き徴収対策を推進し、徴収率の向上を図ってまいります。

次に、ふるさと納税制度の推進についてでございます。魅力的な返礼品の開発や、見やすいウェブページの更新、地域事業者への支援などを推進し、自主財源の確保に努めてまいります。

そのほかにも、公有財産の売却も含めた有効活用や、国際ターミナルの使用料の見直しなどの取組を進めます。

次に、歳出の削減の具体的な事業は何かと御質問ですが、歳出削減につきましては、まずは事務事業の見直しでございます。最小の経費で最大の効果を得るために、既存の事業についても見直しを図り、真に必要な事業に対して限られた予算の配分に努めてまいります。

また、令和4年3月に改定した対馬市公共施設等総合管理計画や、令和5年3月策定の対馬市公共施設等個別施設計画第2期に基づき、計画的な公共施設の廃止、集約、複合化、長寿命化、転用、規模縮小を市民の同意を得ながら進め、維持管理経費の縮減や平準化を行います。

そのほかにも、民間活力、ボランティアの積極的な活用、補助金の整理・合理化など、これまでと同様に着実に歳出の削減に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） では、大きな1番、2期8年間の自己評価についてなんですけど、昨日も申しあげましたけど、重要項目、目標項目ですね、K P Iというのがありますが、それを達成すれば、市長の将来ビジョン、すなわち目的を達成するものであるべきなのが、このK P Iだと思っています。ところが、この重要目標を達成したからといって、目的が達成されるかどうかと疑念が生じるものが多々あります。本日の成果発表の中でも、単年度実績を上げられておりますが、単年度実績の加算のみだけではなくて、それでは目的達成の成果と言えないと私は思っています。

増えるものもあれば、減るものもある。継続的にここに住み続けていただいている移住者、これが増えるということが目的なはずなんです。ですから、単年度で幾ら増えたかという目標をつくるのも一つはいいです。ただ、重要なのは、この何年間、これだけ来て、そのうち、これくらいの人、これだけの人が残ってくれたんだという結果を出すことだというふうに思っています。K P I 自体の見直しを検討する必要性について、市長の見解を求めます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） K P I の関係につきまして、ちょっと私も、今この場で、すぐ、どうしますということはなかなか申し上げられないということで、これは担当部課と今後、協議した上で、また決定をしていきたいなというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 昨日の資料、担当部署のほうに、私、こうしたらどうだろうという提案を出しておりますので、また検討していただければと思います。

それから次に、大きな2番、3選を目指すに当たって、現段階でのマニフェストの構想についてお聞きしますという点についてですが、今、構想中であると。そして予算にどういうふうなもの当初予算に乘せるんだという問いについても、骨格予算になるから、ここの場では控えるという御答弁だったと思います。

では、これ、批判としてじゃなくて、提案として聞いてください。今から申し上げます。

なりわいづくりについては、私は以下の5点を今後の対馬市で推進していくべきだと思っています。

①E S G投資、②ソーシャルビジネス、③M&A、買収と合併、事業承継のことですね。それから既存産業の再構築。それから5番目、兼業、副業の推進。6番目、貿易の振興です。

まず、1番目と2番目から申し上げます。

E S G投資とは、従来、投資判断は財務上の数値のみでなされていましたが、投資家が環境、社会、ガバナンスの3つの視点から投資先を評価し、その評価に基づいて投資を行おうということです。そのため、企業の社会的な取組、環境及び社会への配慮、企業ガバナンスの向上など、非財務情報も投資の重要な判断材料となります。例え、財務上の評価、売上げや利益が高くても、E S G評価が低ければ投資対象から外れてしまう場合もあります。

②ソーシャルビジネスとは、子育て、高齢者、障害者の支援や、地方活性、環境保護、貧困、差別問題など様々な社会問題の解決を目指して事業を展開し、社会貢献を目指す取組のことです。社会課題が多様化してきた今、行政による福祉的解決には限界があり、ソーシャルビジネスには注目と期待が寄せられています。

対馬のなりわいづくりに関して、この①、②の重要性については、対馬グローバル大学w e b講座で、九州大学、出水薫教授及び長崎大学、山口純哉准教授の講義でも説かれていました。

漂着ごみ問題に対して、中間支援組織、一般社団法人対馬C A P P Aに協議会の運営を委託するなど、市民協働で解決に取り組んでいるよい事例もあります。私は、これは大変評価しています。

対馬市の社会問題解決に向けて、中間支援組織育成・支援を強化して、E S G投資を呼び込み、



ソーシャルビジネスとして成立する基盤づくりに積極的に取り組んではどうでしょうか。市長の答弁を求めます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） いきなりの提案ということで、私のほうも、これを一つ一つ、こうします、ああしますということは、申し上げることはできません。

そういう中で、まず、今、対馬グローバル大学の中でもいろいろと協議を進めているところ、そしてまた先ほど議員のほうからもありましたように、九大の出水先生や長崎大学の山口先生、こういう先生からも本当に貴重な御助言等をいただいていることについては、今後の検討材料としたいと思いますし、先ほど議員のほうから提言があった内容につきましても、今後、市のほうに提言書としていただければ、これもまた今後の検討材料ということにしたいというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） また、今日も私が何か通告、確かに通告書には書いてないですが、答弁書を作成する担当の課長のところには、答弁書を作成する前までに、もっと詳しいことはこういうことを質問するつもりですよというのをレクチャーに行っています。なかなか通じないので、これから直接市長にお話しに行ったほうがよろしいでしょうか。

私は、自負しているのは、自分の一般質問の通告に関しては一番詳しく書いているし、それに足りないだろうと思っているところについては、担当課に私が出向いてレクチャーしている、そのつもりはあります。ただ、これがなかなかつながってないのか、私の伝え方が悪いのか、よく分かりませんので、その伝え方を今後、考えたいというふうに思います。

私がこの1、2番で言いたかったのは、ボランティアだけに頼る形では、新しい公共、つまり今まで行政がやってきたことを民間企業とか、NPOとか、そういうところに託していかなければならないと。それをビジネスとして成り立つようにしていく工夫をしていきたいと思いますよという話をさせていただきました。その点については御理解いただいているようですので、また自分でこういうことをしてはどうでしょうかという提案については、文書等にして御提案させていただきたいと思います。

それから3番目、今回も企業誘致についての質問等もたくさんありました。

私は、企業誘致も大事ですが、むしろ事業承継を含めた中小零細企業の支援が対馬においては求められていると認識しています。

現在、対馬市は、事業承継を創業の一部とみなして支援する方針を打ち出しています。現在、担当課に、地元税理士事務所等に事業承継の実態をヒアリングに行ってみてはどうですかと提案したところ、早速行っていただいて、勉強になりましたということをさせていただきました。そ

の取組は評価しています。すぐに行っていただきました。ありがとうございます。

しかし、今議会初日に上程された対馬市企業誘致条例の一部改正議案については、新設、増設を支援対象の必須条件としているなど、しばらくは現状維持を前提とする事業承継を想定しているの难道うかと疑念を抱きます。

初日の私の質問を御覧になっていた市民から、事業承継支援に力を入れている自治体は、中小企業支援条例などを制定して、その中で事業承継支援も手厚くやっている例があるよという情報をいただきました。

このように、創業支援と事業承継を別立てで実施する方針転換を検討してはいかがでしょうか。市長の答弁を求めます。

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀 敏治君） 事業承継と企業誘致と含めてという質問内容だったと思いますけども、まず今回、条例一部改正、上程させていただいた企業誘致については、基本的には島外の企業を誘致するというのを大前提としておりますので、島内事業者の事業承継のために企業誘致条例があるというようなことは想定しておりません。

今現在、市で取り組んでいる事業といたしましては、議員も御存じの雇用拡充支援事業、創業支援がございますけども、その中で事業承継事業というような補助制度ではございませんけども、創業とか、事業拡大していく中で、年間何十件、20件、30件、ここ数年取り扱っているわけですけども、その中にも事業承継を絡めて事業規模を拡大するとか、新たな機械を購入するとか、そういった事例も現実的にございますので、事業承継を表に出して募集とかはしてはおりませんけども、雇用機会拡充支援事業の中で事業承継も数件発生はしておりますので、既存の事業の中で事業承継についてもカバーできているのかなというふうに考えております。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） では、私は、努力はしていることは認めていますということと言わせていただいたと思います。ただ、それを実らせるためには、やはり創業支援の中という取扱いではなくて、対馬市は事業承継にも一生懸命取り組んでいるんだよということを見せるためにも、こういう条例を新たにつくって、今、黒字であっても、黒字は倒産と呼びませんので、黒字であっても事業を閉じる方々ですね、そういう方々、少しでもこれが売ることができれば、また対馬にお金が残ることになるじゃないですか。そういうことも考えて、別立てで考えるということについても考えていただきたいなど。

そのことについても、私がもう少し案を練って持っていきたいと思います。よろしく願いいたします。

それから4番目、冒頭で述べたように、私は畑違いの企業誘致よりも既存産業の再構築を優先

すべきだと認識しています。海業等の副業、産業化も含めた支援を打ち出していることは大変評価できると思っています。

ただ、企業誘致というメリットばかりじゃなくて、デメリットもあるんだという話を最近お聞きしました。県内のI市では、電気産業の企業を誘致する際に固定資産税の免除等を行って来てもらうように取り組んだ。その際、免除した固定資産税については入ってきているものだと、国から言わせると。市が勝手に減免したんだろと。だから入ってきたものとして、交付税、交付金の算定はするぞというふうな形になっているよだということ、そのI市の財政担当課長から漏れ聞いております。だから、企業誘致することのメリット、デメリットも考えながら、企業誘致というものに取り組んでいくことも考えなければいけないかなというふうに思っております。

6番目、古来から対馬が繁栄した時期は大陸や半島との貿易が盛んであった時期と一致していることは多くの方が認識されていらっしゃると思います。貿易振興を図るには、市役所の一部のみで取り組むにはあまりにも多岐にわたっており、困難を極めると思われます。

そこで、財部市政時代に5つの循環というプロジェクトチームを設置していましたね。

比田勝市政では、貿易振興を図ろうと先ほども力強い宣言をしていただきました。

そこで、この貿易振興を図るプロジェクトチームというものをつくることは考えられないのか、市長の答弁を求めます。

また、令和4年6月の定例会で、厳原港と比田勝港を統合化する案も浮上していると市長は答弁しています。2港の連携を図るならまだしも、70キロも離れた港を統合化するとイメージが湧きません。厳原港と比田勝港の統合化とはどのような意味なのか、市長の答弁を求めます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、企業誘致の関係でございますけども、企業誘致も対馬市ではあくまで基本4種、それに市長が適当と認めるものについて企業誘致とするというような条例としております。そういう中で、私自身も、例えば、同じ企業誘致をする場合、小売業の、対馬の小売業の関係に支障が出るような企業誘致は、議員と一緒に、それは避けなければならないという強い思いを持っております。そういうところに、私も今後も注意しながら、企業誘致については、ただ、本来、対馬にはない新たな産業等もございますので、こういった面については、雇用を確保していくためにも進めてまいりたいというふうに思っております。

それから貿易振興の関係で、直ちに、このプロジェクトチームをつくる気はないかというような質問だったと思いますが、今現在、まず先ほどの大浦議員の質問の中にもありましたように、今後、税関法の関係とか、税関関係ですね、そういったところとか、港の開港問題、貿易問題、こういったところをまずですね、詳しく職員とともに勉強をするところから始めていきたいというふうに思っております。

最後に、厳原港と比田勝港の統合の関係については、担当部長のほうから答えさせます。

○議長（初村 久藏君） 建設部長、内山歩君。

○建設部長（内山 歩君） 比田勝港と厳原港の統合に関してですけれども、この統合化につきましては、令和元年6月の定例会におきまして、市長の行政報告の中で対馬港プロジェクトの取組について報告され、この取組につきましては、比田勝港を重要港湾へ昇格できないかということで、当時の国土交通大臣が来島された折に随行された港湾局長との面会の中で、比田勝港の現状と韓国人観光客の受入れ体制整備の必要性を説明して、その中で、港湾局長のほうから、地方港湾比田勝港の単独での重要港湾は難しいけれども、厳原港と比田勝港を統合しての重要港湾化、こちらについては選択肢があるというアドバイスを受けております。

その後、国のほうからのいろいろアドバイスも受けながら、また、港湾に関しましては長崎県の管理となりますので、県のほうにも、今後、統合化に向けた協議をしていただくよう要望する中で、今後、九州地方整備局、長崎県、対馬市と協議を重ねていくということで、その後、国・県、市と協議を3回、4回程度重ねておりますけれども、この統合に当たっては、ただ単に比田勝港と厳原港を統合するだけではなく、あくまでも統合ですので、それに係るスクラップ&ビルド、要は不必要なものは廃棄・廃止して、新たなものであるということになれば、本市港湾、重要港湾1港、あと地方港湾9港ありますけれども、その10港を整理しながら進めていく必要があるということですので、そうなれば、地方港湾が減ってくることも考えられるということで、この分については、地方港湾を有する地区や漁協等の調整が難航する可能性も高いということ、あと類似機能の港湾同士が離れておりますので、その辺からかなりハードルが高いということが考えられております。

現段階におきましては、厳原港、比田勝港の統合構想の実現可能性について、その整理を行い、可能であれば、統合計画素案等の事前検討を行い、対馬港構想検討準備会、こちらのほうの中で、どのように今後、構想を立てるかという検討を行っているところでございます。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 要は、統合というのは、今ある重要港湾等を整理していくということ、そういうふうな捉えてよろしいですね。はい。

それから先ほど市長が税関法と言われたんですけど、ちょっと私、勉強不足か分からないんですけど、税関法という法律があるんですか。関税法でいいですか。（発言する者あり）はい。

それから、大浦議員の一般質問の際に市長が比田勝港の開港に一生懸命取り組むと答弁したことを大いに期待しています。

それから、ただし、市長の開港に関する認識に疑念を持ちましたので、質問します。

大浦議員がおっしゃったように、開港基準については明文化されていません。市長が開港基準として上げた数値は、それを一定期間下回ったら開港を取り消すという基準だというふうに思っております。

また、開港とは、保税蔵置場が設けられていれば……。

○議長（初村 久藏君） 脇本君、時間が来ておりますので……。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 私じゃなくて、こちらが止めたでしょう。その期間は止めたんですか。

○議長（初村 久藏君） どうぞ。注意だけ。

○議員（9番 脇本 啓喜君） また、開港とは、保税蔵置場が設けられていれば、原則そこで輸入をほかの港よりも比較的簡易な手続で可能な港と捉えていいでしょう。ただし、不開港であっても、他所蔵置手続を取れば貿易は可能です。逆に巖原港のように開港であっても保税蔵置場を持たない港は不開港同様、その都度、保税蔵置場手続を踏む必要があります。

大浦議員から、スケトウダラを韓国から輸入して加工し、輸出する構想が披露されました。比田勝港国内ターミナル背後地に保税工場を建設し、そこを加工貿易の拠点とすれば、輸出入両方の関税減免措置優遇が受けられます。この土地を上対馬病院建設候補予定地の一つとしていますが、津波等の心配を考えれば候補地としては不適合ではないかというふうに私は考えているということをお伝えして、本日の質問を終わりたいと思います。

以上です。

○議長（初村 久藏君） これで、脇本啓喜君の質問は終わりました。

以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

議事運営の都合により暫時休憩します。再開は2時15分からといたします。

午後1時58分休憩

-----  
午後2時15分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

ただいま大浦孝司君ほかから、地方自治法第135条第2項及び会議規則第160条第1項の規定によって、入江有紀君に対する懲罰の動議が提出されました。

この動議を日程に追加し、追加日程第1として直ちに議題とすることについて、起立によって採決をします。この動議を日程に追加し、追加日程第1として直ちに議題とすることに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（初村 久藏君） 起立少数です。動議を日程に追加することが否決されましたので、後日